



共生型施設で 安心のまち・暮らし創造事業

活動報告書

特定非営利活動法人耳をすませば



はじめに

北海道北見市で、当法人が運営する共生型福祉施設「夕陽ヶ丘オレンジスタジオ」は、平成 25 年の設立以来、子育て支援と高齢者支援を中心に活動を行ってきました。

幼児・児童一時預かり、子育て支援や高齢者健康づくり、高齢者居住等で、これまで一定の成果を上げてきました。しかし施設全体の稼働状況を見ると、まだ余力があり、既存事業の充実や新事業について検討をおこないました。

その結果、施設設備内容や地域性から、最近、障がい児支援や学童支援の場としての利用・活用を他 NPO 法人や地域より要望されており、その対応を優先的に検討いたしました。しかし現状は、それを実施するための設備や運営支援体制が不十分であり、要望に応えられる状況にありませんでした。

より暮らしやすい共生地域社会実現のため、現状の共生型施設の設備、人的機能強化を実施し、よりよい助け合いシステムを構築し、共生型福祉施設の有効性を広めるため、本事業を実施いたしました。

本事業により、新たに、障がい児支援、学童支援事業を加え、より総合的に共生型事業に取り組む設備整備、担い手育成を行い、さらに既存事業の子育て支援、高齢者支援事業の充実、拡大のための新たなメニューづくりと告知活動強化を行うことができました。

人口減少、少子高齢社会の進展にともない、地域に生きる人たちが、いままでにない生活の様々なリスクに直面し、不安な要素が満ちてきています。

法人の設立理念であるソーシャル・インクルージョン（社会的弱者を広く包み込んでいく社会）を目指すためには、全員参加型社会の形成が不可欠であり、その実現には、子育て環境整備、高齢者、障がい者の居場所づくり等の取り組みを総合的に丸ごと推進していくことが重要と考えています。

本事業の結果が、他地域の共生型事業の参考になり、「女性や子ども、年齢、障害のあるなしに関わらず、安心、安全に暮らせる地域づくり」を実現するために活動をしている皆さまのお役に立てば幸いです。

本事業を実施させていただきました「独立行政法人福祉医療機構」のみなさまに改めて感謝いたします。

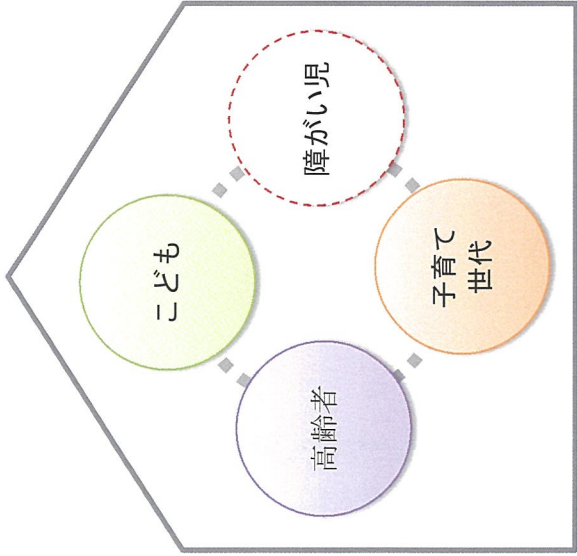
平成 30 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 耳をすませば

代表理事 谷 井 貞 夫



共生型施設で安心のまち・暮らし事業
概要・成果



●従来

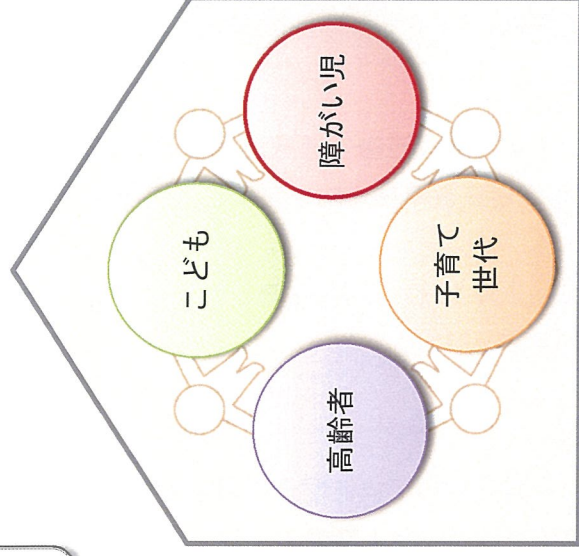
●学童支援体制整備及び支援事業



●障がい児支援体制整備事業



●児童、高齢者ふれあいレストラ事業



●現在

本事業の成果

1. 施設利用者・活動者数の大幅な増加
設備の充実、活動体制整備、新規事業開始等により、利用者・活動者総数が大きく伸び、施設の稼働率が大幅に向上した。
2. 地域共生型施設らしい利用者構成が変化
従来、少なかった障がい児の利用が大きく増え、既存事業も充実し、利用バランスの良い共生施設になった。
3. 施設及び活動の知名度向上
北海道介護新聞、北海道社会福祉協議会広報誌に取り上げられ、福祉関係者を中心に大きく知名度が向上した。

【利用者・活動者延べ人数推移（前年比）】

	平成 28 年 (4 月～12 月)	平成 29 年 (4 月～12 月)
総数 (人)	1,380	2,717
内訳		
障がい児	28	714
子ども	585	759
子育て世代	298	721
高齢者	469	524

【構成比】 %



障がい児／子ども／子育て世代／高齢者

障がい児／子ども／子育て世代／高齢者

学童支援体制整備及び支援事業

概要

大学生、社会人を対象に学童支援の有償ボランティア育成研修を連携法人の研修施設でおこな
い、小中学生（発達障がい児を含む）を対象とした学習支援事業体制を整備し、支援を開始した。

1. 学習指導法研修（平成 29 年 5 月 27 日、6 月 17 日、7 月 15 日、7 月 19 日、8 月 30 日、10 月 6 日、
11 月 28 日、12 月 5 日 各回 18 時～21 時）

○内容

発達障がい児への対応及び学習指導の注意点

第 1 回・第 2 回「カウンセリングを知る ～自己覚知・自己開示・自己解決～」

第 3 回・第 4 回「発達を知る～キャリア発達と形成・対人関係の理解・援助関係の理解～」

第 5 回・第 6 回「学習する意味を見出すには ～成功体験・承認欲求を土台として～」

第 7 回・第 8 回「学習指導上のポイントと注意点」

○講師 菅波大輔（学習塾講師、介護福祉士）

○参加者 大学生（北見工業大学・日本赤十字北海道看護大学）7 名、社会人 2 名

2. キャリア教育研修平成（平成 29 年 10 月 21 日、22 日 計 8 時間）

「夢！自分！発見！のら」 すきなもののビンゴ&お仕事マップ

○目的

一人ひとりの子どもたちが自分のよいところを活かし、夢に向かっていくお手伝いをする。

○内容

地域の大人が協力し合い、子どもたちが、世の中の仕事と自分の好きなこととの関係をゲーム
やグループワーク形式で学び、将来のことを考えるのは楽しいことだと感じ、さまざまな職業
に対する理解を深めるお手伝いをする。

○講師 特定非営利活動法人キーパーソン 2 1 林 章子

○参加者 大学生 4 名 社会人 2 名

3. コミュニケーション研修（平成 29 年 11 月 23 日、25 日 計 6 時間）

○内容

しつもんを通して、コミュニケーションを深め、対人関係構築力を高めることにより、子ど
もたちとの良好な関係を築く手法をワークショップや座学で学んだ。

○講師 やのはらこうすけ（しつもんインストラクター）

○参加者 大学生 2 名 社会人 2 名

4. 学習支援

○内容

研修を受講した学生等が、主に発達障がい児を対象とした学習支援を実施

○実施日時 平成 29 年 12 月 16 日、平成 30 年 1 月 27 日、3 月 3 日、3 月 24 日（2～3 時間）

学童支援体制整備及び支援事業

障がい児支援体制整備事業

○概要

北見市内の障がい児支援NPO法人と連携し、当法人施設を活用し、放課後デイサービス事業や助け合い活動の料理実習や学習支援および相談等を受け入れるための使用機材・持ち物等の収納棚、ロッカー、テーブル等を中心に環境整備を実施した。

環境整備により、子育て支援体制面でも充実し、障がい児を含む、幼児、児童、生徒が利用しやすい環境になり、利用者数の大幅な増加に寄与しました。

○実施日時・利用者数

利用者：連携団体「NPO法人とむての森」に通う発達障害児童を中心に利用

4月～8月 週2日 3～5名/回

9月～12月 週4～5日、7～10名/回

○実施内容

放課後デイサービス利用者（障がい児）を中心とする児童受け入れのための、ロッカー、収納棚、ストーブガード、ラック、テーブル、チェア等の設備を導入し、利便性や安全、衛生面に配慮した環境整備を実施いたしました。

放課後デイサービスでは設備を利用し、多くの障がい児が、調理実習や接遇研修、近所のスーパーでの買い物研修等を実施しています。

相談や学習用の環境も充実し、施設全体が多様な利用が可能になりました。

多くの利用者がいても対応できる環境が整い、安全・衛生面で一段と安心して活動できるようになりました。

土日を中心に行っている子育て世代への支援事業でも設備が利用され、共生型施設として大きく機能が向上しました。

○事業成果

1. 平日の稼働率が低かった調理室が最大限利用され、施設の利用者数の増加に大きく寄与した。
障がい児の利用数 28人→714人（前年比25倍）
2. 調理学習を主とする放課後デイサービスは大変珍しく、共生型施設として知名度が向上した。
3. 障がい児と施設を利用する高齢者、ボランティア等との交流機会が増え、地域コミュニティの拡大に寄与した。
4. 施設利用者の増大に伴い、当初は想定していなかった子育て世代支援事業の研修会、交流会参加者も増え始めた。
5. 法人の目指す「女性や子ども、年齢、障がいのあるなしに関わらず、安心・安全に暮らせる地域づくり」の実現に近づくことができた。

障がい児支援体制整備事業

児童、高齢者ふれあいレストラン事業

○事業概要

共生施設内にある調理施設を利用した児童・高齢者ふれあいレストランを計7回開催した。障がい児を含む地元小中高生と高齢者が一緒に、助成事業で購入した機器、器具（発酵器、野菜乾燥機、ガスコンロ、ミキサー等）を利用し、調理を共同でおこない、食べ、ふれあう時間を共有し、相互に楽しめる集いの場づくりをおこなった。

○実施日時

平成29年6月26日、7月24日、8月21日、9月25日、10月30日、11月27日、12月18日
各回14時～16時30分

○参加者数（延べ人数）

地元小中高生（障がい児含む）51名、高齢者 26名

○講師

佐藤千鶴子（栄養士）6回 ・森川 寿恵（野菜ソムリエ）1回

○実施内容（調理メニュー）

平成29年 6月26日（月）簡単パフェ、チョコスティックパイ
7月24日（月）簡単パン（クリームパン等）、マシュマログラノーラ
8月21日（月）菓子パン・ピザパン
9月25日（月）カントリークッキー、蒸しパン、わらび餅
10月30日（月）かぼちゃパイ、かぼちゃプリン
11月27日（月）ツリーマフィン、簡単雑煮
12月18日（月）クレープ、簡単ピザ

○事業成果

高齢者と発達障害の小中高生を中心とした児童、生徒との交流が促進され、楽しい時間を共有し、それぞれが満足を得る結果となりました。

回を重ねるに従い、相互に打ち解けて、子どもたちもおばあちゃんたちと仲良く会話も弾み、可愛がられて嬉しそうにしている姿がとても印象的でした。

1月以降は、子どもたちが自主的に、おばあちゃんたちに招待状を出し、子どもたちがお菓子をつくり、月に1回カフェを開催し、交流が定期的に行われるようになりました。

○参加者感想（高齢者）

- ・毎回多くの子どもたちに囲まれ、大変楽しい時間を過ごせた。
- ・一人暮らしで会話が少なく、子どもたちとの交流が楽しみだった。

児童、高齢者ふれあいレストラン事業

施設案内・共生型事業説明リーフレット作成

NPO法人「耳をすませば」の活動、運営する「夕陽ヶ丘オレンジスタジオ」の施設概要説明用にリーフレット（500部）を作成しました。

当法人の中核事業である子育て支援、高齢者支援事業の内容紹介、また今回の助成事業で新たに取り組みを開始した障がい児支援、児童学習支援事業を多くの方に知ってもらうための告知活動強化を目的に作成しました。

作成したリーフレットは、共生型施設に関心のある、自治体、団体への配布及びセミナー、研修会、視察時等に配布し、施設及び事業のPRを行いました。

当法人の共生型施設については、単一の福祉事業ではなく、複数分野にわたる活動が多く、事業内容を言葉だけでは説明しにくい部分がありましたが、リーフレットにより、より理解しやすくなりました。

今後も情報発信ツールのひとつとして有効に活用してまいります。

※事業案内リーフレット（500部）



共生地域社会のモデルとなる施設を目指して

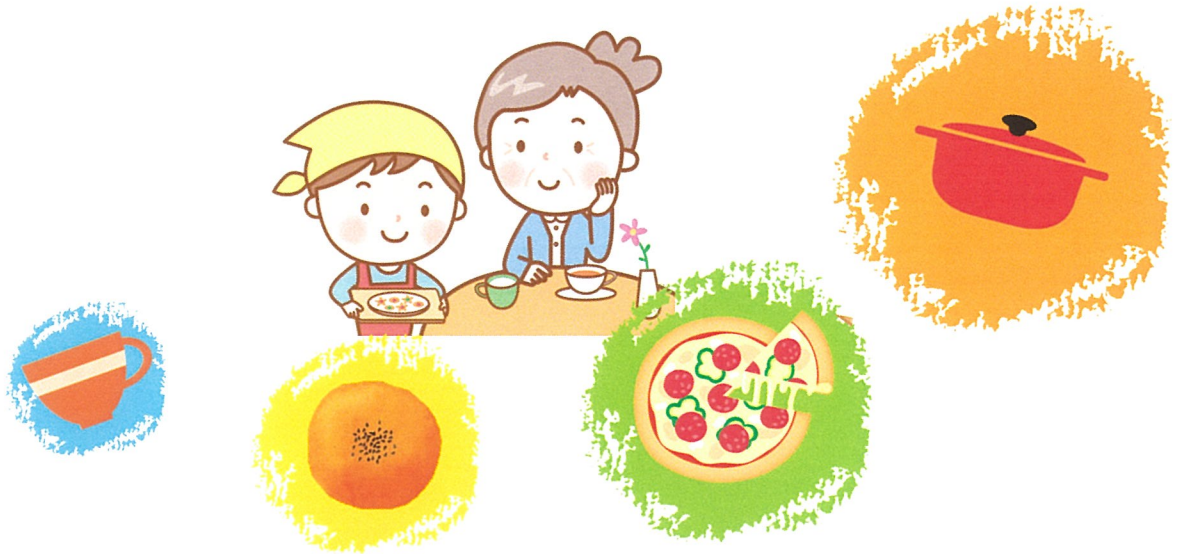
今回、助成事業の設備整備と人材育成により、「夕陽ヶ丘オレンジスタジオ」の設備が充実し、新たな事業に向けた人材の確保も行うことができました。従来と比べ、利用者、活動者が幼児、児童、高齢者、障がい者、母親、大学生等と幅広くなり、取り組む活動内容も、一時預かり、高齢者住まいの場、障がい児の日中の居場所、介護予防活動の場、調理施設を活用した食育事業など多種・多彩な活動により、共生社会を実現したものとなりました。

今後の地域社会における福祉事業は、従来の高齢者・障がい者・子育て等の縦割りの仕組みから、丸ごと包み込む仕組みに変わっていくものと思います。その時に求められるのは「活動場所」と「担う人材」です。それは簡単に整備し、求められるものでないと考えます。地道な活動により、多くの人たちにその必要性を感じてもらい、自ら行動する人たちを少しずつ増やしていく中で、実現していくと日頃の活動を通じて感じております。

今年度、助成事業の進捗と共に、施設利用者数、施設外事業参加者数ともに、大幅に増加いたしました。私たちが目指し、活動を続けてきた方向性は地域の必要性に沿ったものと確信しています。この動きをさらに加速、推進していくために、今回の助成事業で得た設備や人材を十分に生かし、活動量と質を高めてまいります。

今後も人口減少、超高齢化社会に対応した共生型施設として、地域福祉拠点の役割を担い、多くの人たちと共に活動していくことを目指していきます。





●特定非営利活動法人耳をすませば

〒090-0065

北海道北見市寿町 1 丁目 6-20

夕陽ヶ丘オレンジスタジオ 1F

TEL & Fax / 0157-57-1690



平成29年度

独立行政法人福祉医療機構

社会福祉振興助成事業